

自分たちの新しい生活様式を考える

～子どもたちを新型コロナウイルスの差別や偏見に感染させない！～

新型コロナウイルス感染症予防のために、各校園が教育活動の見直しを図りながらも支持的風土を醸成し、子どもたちが支え合い、助け合い、励まし合える学級・学校づくりにご尽力いただいていることに感謝申し上げます。

本号では、新型コロナウイルス感染症に関わる差別や偏見を生まないための集団づくり、感染症の不安を乗り越える集団活動の考え方について紹介します。子どもたちの実態に応じて指導・支援の参考していただければと思います。

Step 1 子どもに正しく教える 感染症への正しい理解を図る

日本赤十字社新型コロナウイルス感染症対策本部が「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」(*下記アドレス)で、新型コロナウイルス感染症がもつ「病気」「不安」「差別」の3つの側面と、それらの関連を断ち切る方法について紹介しています。まずは、このような資料を用いて、感染症への正しい理解と対応の仕方をしっかりと子どもに指導することが大切です。

*日本赤十字資料【http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326_006124.html】

Step 2 子ども一人一人が考える 自分事として考えさせる

10月1日に教育長より、市立学校園の子どもたちに向けて、新型コロナウイルス感染症の差別や偏見の防止を呼び掛けるメッセージが出されました。

Step1の資料などと合わせて、子どもにこのメッセージについて、自分はどのように受け止め、これからどのような行動を取ればいいのかを考えさせる機会とすることが大切です。あわせて担任は、この場面を捉えて、子ども一人一人の考えを把握し、不適切な考えに対しては指導・助言を行う機会とします。

Step 3 みんなで話し合っ乗り越える 新しい生活様式を決める

感染予防の様々な制限が子どもに強いストレスを与えています。マスクを着用して、ソーシャルディスタンスでの活動に不快や不満を感じている子どもが多くいます。

このような不安定な状況だからこそ、子どもたちには、新たな生活様式の中での自分自身の行動や学級としての活動を前向きに話し合わせることが必要です。差別や偏見といった負の事柄を考えると、教師の適切な指導の下、思いやりや協力といった楽しくてやりがいのある活動へと子どもの発想を転換させることで、仲間への信頼や支援、そして望ましい人間関係形成へとつながることと思います。

次号は、今できる支持的風土の醸成のための話し合い活動を紹介します。

